

【専門教育科目/看護の展開/在宅看護学】

科目名	ナンバリング	区分	単位数	履修年次	開講学期等
在宅看護学実習Ⅰ（地域）	NSP34_008	必修	1	3	後期
担当教員	研究室	電子メールID	オフィスアワー		
山崎 洋子 他	301	y.yamazaki	水曜日 12:10～13:00		
授業の目的・概要	市町村保健センターや地域包括支援センターにおいて、在宅療養者と家族に対して地域の中でどのような看護が提供されているのか、保健師の活動と地域ケアシステム・連携等の活動を通して学ぶ。実習方法は、課題学習、地区めぐり、保健師の講話を実施し、地区めぐりでは、地域住民の暮らしや地域の中で利用できる保健医療福祉システム・施設等を地域に出て調査する。課題学習はTeamsを活用したオンラインで行う。				
学習上の助言	行政保健師の活動を通して、地域で生活する人々の健康がどのように守られ支えられているのか、興味を持って学習して欲しい。				
教科書	厚生省の指標 増刊 国民衛生の動向 2020/2021				
参考書	公衆衛生看護学（第2版）/著:上野昌江 他/中央法規/2016 系統看護学講座 在宅看護論（第5版）/著:河原加代子 他/医学書院/2017				
学生が達成すべき行動目標			関連卒業認定・学位授与方針		
① 実習オリエンテーションを受け、実習目的やスケジュール等を理解できる	NS(1)				
② 地域に暮らす人々の健康に影響を及ぼす環境や生活の様子など地域特性を説明できる	NS(1)～(3)				
③ 保健センターや地域包括支援センターの機能と役割を説明できる	NS(1)～(4)				
④ 在宅療養者や家族の生活を支えるための社会資源の活用や関係機関との連携について説明できる	NS(1)～(4)				
⑤ 地域における看護活動の意義を説明できる	NS(1)～(5)				
授 業 計 画					
1. 実習時期と期間 3年次後期 1週間					
2. 実習場所（地区めぐり） 下吉田駅（富士急行線）、三つ峠駅（富士急行線）、東桂駅（富士急行線）、都留市駅（富士急行線）、猿橋駅（中央本線）、初狩駅（中央本線）の周辺					
3. 実習展開					
	月曜日	火曜日	水曜日	木曜日	金曜日
午前（登校）	休講 (9/7 9/21)	オリエンテーション 課題学習 (グループ)	地区めぐり	保健師による 講話 視聴覚学習	課題学習 (個人) 【自宅】
午後（原則自宅）	休講	課題学習 (個人)	課題学習 (個人)	課題学習 (グループ) Teams	実習での学び 報告会 【登校】
Teams		課題の確認	課題の確認	課題の確認	
4. 具体的な実習方法					
1) 地区めぐり					
① 独居高齢者（Aさん）の“ある半日”の生活をイメージし、地区めぐりの行動計画を立案する。					
② 事前学習として、地区めぐりを行う市の特徴を調べる。					
③ 地区めぐりを行い、地域特性をまとめて生活上の課題や疑問を明らかにする。					
④ Aさんが安心して生活していくために必要な支援を考える。					
※③④は個人で考えた後、Teamsを利用してグループで意見交換を行い、考察を深める。					
2) 保健師による講話					
① 事前学習として「保健センターと地域包括支援センターの役割・機能を調べる」「生活習慣病対策、母子保健、老人保健について『国民衛生の動向』を読み、健康づくりの取り組みを知る」をまとめる。					
② 市町村保健師による講話、「ライフサイクルに沿った保健事業の紹介」「介護予防活動」「認知症施策について」を聴く。					
3) 視聴覚学習					
① 保健師活動の実際をDVD視聴し、保健師の講話や地区めぐりでの気づきをもとに学習を深める。					
4) 地域住民の方とコミュニケーションをとる					
5) 実習での学び報告会					
① 一週間を通しての学びを共有する					
6) 日々の学びを実習記録にまとめる					
① 課題学習や体験を通して気づいたことや学びを、わかりやすく表現しまとめる。					
② 実習まとめのレポートを作成する。					

【専門教育科目/看護の展開/在宅看護学】

学習課題・学習時間（時間）							
<ul style="list-style-type: none"> <li>課題学習では指示された課題について取り組み、学びや考えたことをわかりやすくまとめる。</li> <li>実習中、日々の学びを記録にまとめる中で、地域住民の生活の様子や地域における看護活動の意義などを考察していく。また、疑問点はなるべくその場で質問し解決するとともに、自主学習においても調べる習慣を持つ。</li> <li>実習終了時にはテーマに沿って自分の考えをレポートにまとめる。</li> </ul>							
必要時間：							5時間
達成度評価							
総合評価割合（%）		試験	レポート	成果発表	ポートフォリオ	その他	合計
		0	50	10	10	30	100
総合力指標	知識・技術力	0	10	0	0	0	10
	思考・推論・創造する力	0	20	0	5	0	25
	協調性・リーダーシップ	0	0	0	0	5	5
	発表・表現伝達する力	0	10	5	0	5	20
	コミュニケーション力	0	0	5	0	5	10
	取組みの姿勢・意欲	0	0	0	5	15	20
		問題を見発見・解決する力	0	10	0	0	10
評価のポイント							フィードバックの方法
評価方法	行動目標	評価の実施方法と注意点					
レポート	①	✓	「本日の実習記録」において、日々の実習目標を立て、教員のチェックを受ける。さらに、実習実施内容および学びをまとめて翌日提出する。実施した内容だけでなく、体験から何を学んだかを考察することが大切である。				「本日の実習記録」をもとに、学生の理解度を確認し、個別かグループで振り返りの機会を作る。
	②	✓	実習終了時には「実習のまとめレポート」をまとめて指定期日までに提出する。				
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
成果発表	①	✓					発表会において指導者および教員から講評を行う。
	②	✓	地区めぐり実施後、地域特性や生活上の課題をグループで話し合い発表する。				
	③	✓	実習最終日には、学内において学びの発表会を行う。				
	④	✓					
	⑤	✓					
ポートフォリオ	①	✓	課題学習や日々の記録など学習した内容の資料を整理し、実習終了後に提出する。				内容や整理状況を確認し、必要時、個別にコメントする。
	②						
	③						
	④						
	⑤						
その他	①	✓	学生が到達すべき行動目標①～⑤の到達度、および、実習への姿勢について教員により総合的に評価する。				学生の自己評価をもとに、学生自身の課題が明確になるように教員と面接を行う。
	②	✓					
	③	✓					
	④	✓					
	⑤	✓					
備 考							
担当教員：◎山崎 洋子、望月 宗一郎、伊丹 幸子、渡邊 美樹 この科目は、担当教員が保健所・市町村における行政保健師活動および訪問看護活動、さらに大学病院における医療連携室での退院調整や療養生活相談等の経験を元にして、地域で生活する対象者の健康を支える看護の実際を、現場の公衆衛生看護活動に意味づけしながら指導し、人々の暮らしに寄り添った看護に必要とされる知識の習得を目指します。 地区めぐりでは、学内での学びを現地で確認するとともに、現地でなければ学べない地域住民の生活感を肌で感じて欲しいです。学外での実習の際、公共交通機関を利用した移動となりますが、感染症予防行動を徹底するとともに、日ごろから自身の体調管理を心がけてください。 登校の際は、大学が公表している感染対策および教員が示す授業方法を遵守してください。 実習内では Teams を使った課題学習の時間があります。その際、通信容量が無制限の Wi-Fi 環境を推奨します。 今後の新型コロナウイルス感染症の状況など社会情勢によって再度シラバスを変更する可能性があります。							